森の通信

Museum and Cultural Institutions of Miyazaki Prefecture

宮崎県総合博物館だより

第 23 号

発行日/平成7年8月12日

発行／宮崎県総合博物館　〒880 宮崎市神宮2丁目4番4号　TEL（0985）24-2071

特別展

日本の消えゆく植物たち

―野生植物と人との共生を求めて―

オニバス（5年前は15ヶ所、昨年は6ヶ所発生：宮崎県）

ヤクシマシャクナゲ

ヤクシマリンドウ

キバナノツキヌキホトトギス
（乱獲で激減）

ヒゴタイ
（宮崎県は絶滅）

ミカワシオガマ
（東海地方固有種）

世界遺産条約指定の屋久島の自然
（寒帯から熱帯の植物を凝集した島）

平成元年にレッドデータブック（わが国における保護上重要な植物種の現状）が公表されました。それによると日本の野生植物の17%（6種に1種）に絶滅の恐れがあるということです。今回の特別展示は、それらの消えゆく植物の現状を宮崎県関連を中心に国内全域について紹介します。また、野生植物の保護の重要性や保護の施策についても触れ、これらの植物と人との共生をいかにして図るかを皆で考える機会とします。（南谷）

展示内容　忍び寄る危機、絶滅危惧植物の日本の現状、あっ！失くなってる～身近な現場からの報告、宮崎県の消えゆく植物、日本の消えゆく植物、なぜ野生植物を保護せねばならぬのか、どのようにして保護するか～人との共生を求めて、保存すべき自然と消えゆく植物の多い所、大切なのは県民の理解と協力

★展示植物：約700種～実物標本・約400点、レプリカ・25点、写真・約1000点

記念講演　平成7年9月16日(土)：13時30分～15時40分

「人と自然の共生～絶滅危惧植物に学ぶ」
岩槻邦男氏　東京大学名誉教授

「大絶滅の危機：日本の野生植物の現状と未来」
矢原徹一氏　九州大学・理・教授

会　期　平成7年9月14日(木)～10月15日(日)

＊休館日：9/18(月)、9/25(月)、10/2(月)、10/9(月)、10/11(水)

入館料

大　人	400	(300)
高大生	300	(200)
小中生	200	(100)

※（　）内は、団体(20名以上)の料金

新しい動きを見せた特別展

「シルクロード西域文物展」は約15000人が観賞し、初の夜間開館やユニークな体験学習など成果の大きい特別展となりました。

神宮の森の夜を彩ったミュージアム・トーク

6月9日と10日の両日、本館初めての試みとして「シルクロードの夕べ」を実施し、午後5時から午後8時30分までの夜間開館を致しました。その中ではシルクロード研究者の森住和弘氏が、シルクロードを通して行われた東西交流の歴史についてわかりやすくまた楽しくお話をされました。2日間で150人を越えた参加者たちは、森住氏の幅広い経験とロマンに満ちたトークに、遠くシルクロードに思いを馳せていました。

古代オリエントの文化に学ぶ

今回、16の学校から多くの児童・生徒たちが、見学に訪れました。展示された完成度の高い古代文物を目の当りにしながら、さまざまな学習活動が展開されました。社会科や美術科、国語科の授業との関連で計画されたもののほか、宮崎北高校のように「化学的な視点にたって、古代人と貴金属の関わりについて調べよう。」というテーマで、メモを片手に熱心に学習する姿も見られました。

「きれいな古代人のおまもり」　江平小　松木由香子

遠足で、シルクロード展に行きました。そこにはとてもきれいな物がおいてあって、その中でも小さなガラスでできたお守りが一番でした。お守りは、石でできた物や、ガラスでできた物もありました。私は、「すごいなあ。とてもきようだね。」と思いました。牛の形をしたお守りがとてもほしくなってしまいました。私は、古代人はとても器用な人たちだったのだろうと思います。

シルクロード展にはすばらしい物がたくさんあり、また、シルクロード展を見に行こうと思います。

「鑑賞教室を終えて」　大宮中　谷口　智紀

古代ペルシャやローマなどのすばらしい文化やシルクロードの果たした役割や、古代の人々がどのようなことを考えて生活していたかよくわかった。今までに何回も博物館にいったことがあるが、このような珍しいものを見るのは、ほとんどないのでよい勉強になった。皿などは細い糸でつないでいたり、ボンドみたいなものでくっつけてあったりしていたので、たくさんの工夫をして苦労したんだなあと思った。鑑賞教室はとても楽しく、勉強になった。また次の機会にも行ってみたい。

新収蔵資料紹介 ～こんな資料が博物館に入りました～

これは、木城町の神野源生氏から寄贈いただいたものです。幕末から大正時代までの製薬・売薬に関する文書や村人が共同で行った屋根普請の記録など貴重なものが含まれており、現在整理を行っているところです。

今年は戦後50年。本館でも8月に戦後50年特別企画展「宮崎の戦時と戦後のくらし」を開催し、昭和10年から昭和30年までの激動の時代に宮崎の人々はいかに生きてきたかを戦時資料を中心に展示しました。そのなかで、多くの皆様からさまざまな資料を提供いただきました。特に、貴重な資料を寄贈いただいた、北川町西野頼助様、延岡市吉本惟栄様、立石マツ様、佐方忠雄様には、紙面をかりて、お礼申し上げます。

話題のコーナー展

北方バイパスに伴う遺跡群(北方町)の調査 〈埋蔵文化財センター〉

今回展示されている石器・土器は北方(一般国道218号椎畑) バイパス工事に伴って県教育委員会が調査して出土したものです。平成元年から5年にかけて打扇(うつぎ)遺跡、早日渡(はやひと)遺跡、矢野原(やのはる)遺跡、蔵田(くらた)遺跡が調査されました。

1 旧石器時代の北方バイパス遺跡群

矢野原遺跡ではＡＴ層（姶良火山灰・22,000年前）の下位の第Ⅰ文化層から出土した旧石器としては石核・剥片類・磨石などがあり、石材としては水晶・流紋岩・砂岩・チャートなどです。しかし、礫群や石器の集中は確認されず、遺跡の中心は調査区外と考えられます。県内ではＡＴ下位の石器群が確認されたのは畑山遺跡(延岡市)・後牟田遺跡(川南町)だけです。またＡＴ層の上位の第Ⅱ文化層から出土した旧石器としてはナイフ形石器・剥片尖頭器・三稜尖頭器・石核・剥片類などがあり、石材としては流紋岩が大半を占めています。礫群は４ヶ所に、石器は７ヶ所程度に集中が見られます。

一方、蔵田遺跡ではＡＴ層の上位からナイフ形石器・剥片尖頭器などの旧石器が出土しました。

2 縄文時代草創期の北方バイパス遺跡群

縄文時代草創期（今から12,000～10,000年前）の土器が蔵田遺跡から出土しています。草創期の土器は隆帯文土器と爪形文土器で、わずか８点ほど出土しています。口縁部直下の隆帯の上からヘラ状工具による横向きの「ハ」状の刻みを施しています。

3 縄文時代早期の北方バイパス遺跡群

縄文時代早期（今から10,000～6,400年前）になると蔵田遺跡を除く３遺跡で生活が営まれます。矢野原遺跡では集石遺構が15基・土壙３基が、早日渡遺跡では集石遺構が５基検出されました。集石遺構は石の表面や土から動物の油分が検出されたことから、「石蒸し」や「炉」として調理に使用されたと考えられています。しかし、竪穴住居は見つかっていません。

早期の土器は楕円・山形押型文土器を主体として撚糸(よりいと)文土器や縄文土器も出土しました。

早日渡遺跡では石器の79.1%は打製石鏃が占めており、狩猟具偏重という早期の一般的傾向を示しています。6,400年前に桜島の南の鬼界カルデラの火山活動によるアカホヤ火山灰が降った後の前期には遺跡は営まれていません。

4 弥生時代後期の北方バイパス遺跡群

弥生時代後期（今から1,900～1,750年前）になると蔵田遺跡では斜面に竪穴住居が１軒作られます。

以上のように県北の五ヶ瀬川下流域の旧石器時代から弥生時代後期の遺跡の様相が明らかにされたことは大きな成果であり、特にＡＴ層上下の旧石器と縄文時代草創期の土器が注目されます。 （長津）

〔展示期間：平成７年７月５日～11月５日〕

経　　筒 〈西都原資料館〉

平安時代後期、末法(まっぽう)思想の広まりとともに、仏法が滅び経典が失われることをおそれた人々は、仏法の再生に備えて経典(きょうてん)を残しておこうとしました。そこで、紙に書かれたお経を容器（経筒）に納め、神社やお寺の境内、丘陵地などに埋めました。

経筒は、円筒形で銅で作られたものが一般的ですが、中には陶器(とうき)のものや石をくりぬいたものもあります。また、この経筒を納めるための容器（経筒外容器(きょうづつがいようき)）もしばしば用いられました。

西都原とその周辺では、西都原古墳群の35号墳から陶製の経筒が、新富町の竹源から銅製の経筒がそれぞれ出土しています。また、都万神社の境内からは、陶製の経筒外容器が出土しています。

本展示では、宮崎市郡司分や日向市日知屋から出土した銅製の経筒も併せて展示紹介します。その一つ一つから、当時の仏教思想の広がりや、人々の願いを感じ取ることができます。 （清水）

〔展示期間：平成７年７月４日～平成８年２月18日〕

展示のようす

今年もますますのってます
博物館自然教室

野外調査会

野外調査会は、今年で３年目を迎えました。身近な自然にスポットをあて、野外でじかに生き物にふれながら自然の大切さを感じていただこうという主旨で開催しております。１年目は、ため池とその周辺で、２年目は、大淀川流域で昆虫・植物の採集と標本つくりをし、採集された全ての生き物を記録し、成果として冊子を作成しました。今年度は、博物館近くの「里山の自然」で活動分野に地質を加え、参加者も約40名を数えました。初心者も１年すると自ら野外で調査収集活動ができるまでになり、これらの機会を通じて横の連携も広がっています。

これまでの調査会から、コガタノゲンゴロウやサナエトンボの仲間、ヒトツバシゲシダの日本一の群生地が確認され報道等で紹介されています。

活動中の参加者たち

採集作品の名前を調べる会

夏休み恒例になっています「採集作品の名前を調べる会」を開催します。昆虫・貝・植物・岩石・化石等の採集作品について、専門の先生方が相談にのります。作品を持参ください。

日時：８月27日(日)
10時～16時
埋蔵文化財センター

博物館総合整備事業

―宮崎を「体験」し、宮崎を「探求」する博物館へと生まれ変わります―

展示室

「宮崎の自然と歴史」をテーマとする常設展示では、実物資料・レプリカ・ジオラマなどを用いて、その自然や歴史・民俗をわかりやすく解説するばかりでなく、さまざまな体験の場を設けることで、さらに深く「宮崎を知り」、「宮崎の未来を考える」行動の契機となるように構成します。

教育普及棟

現在、多くの博物館では展示面ばかりでなく教育普及面に対する要望等が急増しています。本館でも「宮崎の自然と歴史」についての情報発信源とし、現在の美術棟を教育普及棟へ改修する計画を進めています。ここでは、資料に触れて学べる体験ゾーン、図書や標本の閲覧ゾーン、実験・実習ゾーン、ＡＶ機器や関連ソフトを用いた検索・鑑賞ゾーンなどさまざまなニーズに応えられる場とします。

エントランスホール

現在のエントランスホールを拡張し、オリエンテーションコーナー等を設けたり、くつろげる空間を設けたりして、明るく落ち着いた雰囲気にします。エントランスホールを無料ゾーンとし、県民に親しまれる開かれた博物館にします。

お願い

現在、博物館では、明治時代から昭和30年代までの庶民生活がわかる資料を収集しています。

日常生活で用いた衣類や食器をはじめとする身近な道具類、街の移り変わりや家庭生活を写した写真や映像、古いラジオや白黒テレビなどの電化製品、衣料切符や国民服など戦中・戦後の資料等、ご家庭で眠っている貴重な資料をさがしています。

連絡先 24-2071　歴史科 津隈・地村・近藤

９月からの催しもの

特別展　日本の消えゆく植物たち　9／14～10／15

常設展　宮崎の自然・歴史に関する展示

（その他の催しもの）

本館

宮日総合美術展
11/3～11/19

埋蔵文化財センター

埋文講座
- 考古学から見た古代の道具 9/23
- 考古学から見た古代の人 10/28
- 学頭遺跡群の調査 11/25
- 考古学から見た古代のマツリ 12/23

県民文化ホール

アンサンブルの夕べ
10/21 18:30～

母と子のための音楽会
12/2 18:30～

西都原資料館

経筒 ～2/18
農耕用具 ～10/8
灯火用具 10/12～